

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成26年11月28日
【中間会計期間】	第75期中（自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日）
【会社名】	小泉株式会社
【英訳名】	KOIZUMI CO.,LTD
【代表者の役職氏名】	代表取締役 谷本 三郎
【本店の所在の場所】	大阪市中央区備後町3丁目1番8号
【電話番号】	06 - 6223 - 7843
【事務連絡者氏名】	経理担当 中西 博之
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区備後町3丁目1番8号
【電話番号】	06 - 6223 - 7843
【事務連絡者氏名】	経理担当 中西 博之
【縦覧に供する場所】	該当事項ありません。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第73期中	第74期中	第75期中	第73期	第74期
会計期間	自平成24年 3月1日 至平成24年 8月31日	自平成25年 3月1日 至平成25年 8月31日	自平成26年 3月1日 至平成26年 8月31日	自平成24年 3月1日 至平成25年 2月28日	自平成25年 3月1日 至平成26年 2月28日
売上高 (百万円)	22,957	23,876	26,753	46,911	46,364
経常利益 (百万円)	1,955	1,784	1,119	3,881	2,670
中間(当期)純利益 (百万円)	2,837	1,055	1,685	4,101	2,204
中間包括利益又は包括利益 (百万円)	3,154	994	1,704	4,652	2,111
純資産額 (百万円)	11,074	13,503	16,272	12,572	14,620
総資産額 (百万円)	22,740	21,928	27,072	21,830	21,878
1株当たり純資産額 (円)	1,109.07	1,360.27	1,676.50	1,260.43	1,472.86
1株当たり中間(当期)純利益金額 (円)	296.03	106.15	171.34	419.83	221.89
潜在株式調整後1株当たり 中間(当期)純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	48.7	61.5	60.1	57.5	66.8
営業活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	245	434	379	1,743	2,334
投資活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	828	26	352	833	22
財務活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	784	264	1,089	1,207	1,424
現金及び現金同等物の中間 期末(期末)残高 (百万円)	2,654	2,353	4,177	2,156	3,044
従業員数 (人)	685	706	916	695	711
(外、平均臨時雇用者数) (人)	(130)	(171)	(188)	(143)	(168)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

3. 第73期中において、平成24年6月19日を効力発生日とする株式交換により、当社が小泉アパレル(株)及びコイズミクロージング(株)を完全子会社化し、負ののれん発生益を特別利益に計上しております。

4. 第75期中において、(株)ジャックコーポレーションおよび(株)ギャルソンの全株式を取得し、同社を連結子会社としました。これにより従業員数が増加しております。

5. 第75期中において、(株)ジャックコーポレーションおよび(株)ジャック富山を連結子会社化し、負ののれん発生益を特別利益に計上した結果、当中間純利益、純資産額及び総資産額が増加しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第73期中	第74期中	第75期中	第73期	第74期
会計期間	自平成24年 3月1日 至平成24年 8月31日	自平成25年 3月1日 至平成25年 8月31日	自平成26年 3月1日 至平成26年 8月31日	自平成24年 3月1日 至平成25年 2月28日	自平成25年 3月1日 至平成26年 2月28日
営業収益(売上高) (百万円)	303	366	368	546	608
経常利益 (百万円)	109	262	240	57	333
中間(当期)純利益 (百万円)	57	40	225	22	1,381
資本金 (百万円)	500	500	500	500	500
発行済株式総数 (千株)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
純資産額 (百万円)	4,348	4,311	5,809	4,326	5,654
総資産額 (百万円)	7,547	7,516	8,978	7,480	7,845
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	6.0	6.0
自己資本比率 (%)	57.6	57.3	64.7	57.8	72.0
従業員数 (人)	7	7	7	7	9
(外、平均臨時雇用者数) (人)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)

- (注) 1. 営業収益(売上高)には、消費税等は含まれておりません。
 2. 「1株当たり純資産額」については、中間連結財務諸表を作成しているため記載を省略しております。
 3. 第73期中及び第74期中における営業収益の増加の主な要因は、子会社からの受取配当金によるものです。

2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容に重要な変更はありません。

3【関係会社の状況】

当中間連結会計期間において、以下の会社が新たに提出会社の関係会社になりました。

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社ジャックコーポレーション 2	石川県金沢市	90	繊維製品製造 関連事業	100.00 (内間接所有100.00)	-
株式会社ジャック富山	富山県富山市	10	同上	100.00 (内間接所有100.00)	-
株式会社ギャルソンヌ	東京都江東区	45	同上	100.00	役員の兼任 1名

- (注) 1. 主要な事業の内容には、セグメント情報の名称を記載しております。
 2. 特定子会社に該当しております。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成26年8月31日現在

従業員数(人)
916 (188)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当中間連結会計期間の平均人数を()外数で記載しております。
 2. 当社グループの事業セグメントは、繊維製品販売関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の従業員数を記載しておりません。

(2) 提出会社の状況

平成26年8月31日現在

従業員数(人)
7 (1)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当中間会計期間の平均人数を()外数で記載しております。
 2. 当社の事業セグメントは、繊維製品販売関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の従業員数を記載しておりません。

(3) 労働組合の状況

労使関係について特に記載すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、消費税率引上げ前の駆け込み需要の発現により個人消費は活発化したものの、4月以降は駆け込み需要の反動減が顕著化するなど、消費動向は不安定な状況で推移しました。

このような経営環境のなか、当社グループは収益体質の改善、財務体質の強化、業務の効率化による経費の削減に努めるとともに事業資源の効率的な運用を図ってまいりました。また、(株)ジャックコーポレーション及び(株)ギャルソンの全株式を取得し、そのシナジー効果を取り込むことにより、グループとしての総合力アップに努めました。

これらの結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高267億53百万円（前年同期比12.0%増）、経常利益は11億19百万円（前年同期比37.2%減）、中間純利益は16億85百万円（前年同期比59.6%増）となりました。

(2)キャッシュ・フロー

当中間連結会計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は営業活動による資金の増加が379百万円、投資活動による資金の減少が352百万円、財務活動による資金の増加が1,089百万円、あったことにより1,116百万円増加し、新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加が16百万円あったことにより、当中間連結会計期間末は4,177百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において営業活動による資金の増加は379百万円（前年同期は資金の増加434百万円）となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益が2,256百万円、未払消費税等の増加額が234百万円あったものの、売上債権の増加が898百万円、負ののれんの償却額が789百万円、有形固定資産除売却損益が340百万円あったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において投資活動による資金の減少は352百万円（前年同期は資金の増加26百万円）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出が169百万円、子会社株式の取得による支出が240百万円あったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において財務活動による資金の増加は1,089百万円（前年同期は資金の減少264百万円）となりました。これは、長期借入金の純増額が1,037百万円、短期借入金の純増額が173百万円、社債の償還による支出が45百万円あったことによるものです。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

該当事項はありません。

(2) 受注状況

該当事項はありません。

(3) 販売実績

当中間連結会計期間における販売実績は、次のとおりです。

事業部門の名称	金額（百万円）	前年同期比（％）
繊維製品販売関連事業	26,753	112.0
合計	26,753	112.0

（注）1．上記の金額には、消費税等は含まれていません。

3【対処すべき課題】

当中間連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

4【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

5【経営上の重要な契約等】

当社の連結子会社であるコイズミクロージング株式会社は、平成26年3月6日付で締結した株式譲渡契約書に基づき、平成26年3月11日に、株式会社ジャックコーポレーションの発行済株式の全株式を取得しました。

当社の連結子会社であるコイズミクロージング株式会社は、平成26年3月6日付で締結した株式譲渡契約書に基づき、平成26年3月11日に、株式会社ジャック富山の発行済株式の50%を取得しました。

当社は、平成26年3月12日付で締結した株式譲渡契約書に基づき、平成26年3月12日に、株式会社ギャルソンの発行済株式の全株式を取得しました。

詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 中間連結財務諸表等 注記事項（企業結合等関係）」をご参照ください。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態

（資産の部）

当中間連結会計期間末における資産合計は27,072百万円となり、前期末比5,193百万円23.7%増加いたしました。うち、流動資産は、18,036百万円、前期末比3,799百万円26.6%増加いたしました。主な増加要因は、現金及び預金が1,174百万円、受取手形及び売掛金が1,473百万円、たな卸資産が904百万円増加したことなどによるものであります。また、固定資産は、9,036百万円、前期末比1,394百万円18.2%増加いたしました。主な増加要因は土地が147百万円、建物及び構築物が329百万円、投資有価証券が229百万円、敷金及び保証金が666百万円増加したことなどでありあります。

（負債の部）

当中間連結会計期間末における負債合計は、10,799百万円、前期末比3,541百万円48.8%増加いたしました。うち、流動負債は、7,433百万円、前年同期比1,867百万円33.5%増加いたしました。主な増加要因は、短期借入金が1,231百万円、未払法人税等が146百万円増加したことなどでありあります。固定負債は、3,366百万円、前期末比1,674百万円99.0%増加いたしました。主な増加要因は、長期借入金が1,319百万円、退職給付引当金が137百万円増加したことなどでありあります。

(純資産の部)

当中間連結会計期間末の純資産合計は、16,272百万円、前期末比1,652百万円11.3%増加いたしました。主な増加要因は、利益剰余金の増加1,649百万円であります。

(2) 経営成績

(売上高)

当中間連結会計期間の売上高は、26,753百万円、前年同期比2,877百万円12.0%増加となりました。

(売上原価・売上総利益)

当中間連結会計期間の売上原価は16,758百万円、前年同期比1,714百万円11.4%増加となりました。この結果、売上総利益は9,995百万円、前年同期比1,162百万円13.1%増加となりました。

(販売費及び一般管理費・営業利益)

当中間連結会計期間の販売費及び一般管理費は9,151百万円、前年同期比1,931百万円26.7%増加となりました。この結果、営業利益は843百万円、前年同期比768百万円47.6%減少となりました。

(営業外損益・経常利益)

当中間連結会計期間の営業外収益は332百万円、前年同期比114百万円52.5%増加、営業外費用は56百万円、前年同期比10百万円22.8%増加となりました。

この結果、経常利益は1,119百万円、前年同期比665百万円37.2%減少となりました。

(中間純利益)

当中間連結会計期間の中間純利益は1,685百万円、前年同期比629百万円59.6%増加となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

「1 業績等の概要(2) キャッシュ・フロー」に記載した事項をご参照下さい。

第3【設備の状況】

1【主要な設備の状況】

当中間連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

2【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末現在発行数 (株) (平成26年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,000,000	10,000,000	非上場・非登録	単元株制度は採用 していません。
計	10,000,000	10,000,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年3月1日～ 平成26年8月31日	-	10,000	-	500,000	-	988

(6) 【大株主の状況】

平成26年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
小泉従業員持株会	大阪市中央区備後町3-1-8	650	6.50
植本 勇	大阪府豊中市	440	4.40
小泉 祐助	兵庫県西宮市	391	3.91
植本 登代子	大阪市住吉区	380	3.80
奥野 純彦	大阪府高槻市	212	2.12
小泉 英助	兵庫県芦屋市	201	2.01
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	200	2.00
山本 明夫	滋賀県八日市市	196	1.96
柳瀬 由郎	京都府京田辺市	195	1.95
小泉 純	兵庫県芦屋市	191	1.91
計		3,056	30.56

(注) 1. 上記のほか、自己株式が293千株あります。

2. 前事業年度末現在主要株主であった川崎政之は、当中間期末では主要株主ではなくなりました。

3. 前事業年度末現在主要株主でなかった小泉純は、当中間期末では主要株主となっております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 293,650	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,706,350	9,706,350	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	10,000,000	-	-
総株主の議決権	-	9,706,350	-

【自己株式等】

平成26年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
小泉(株)	大阪市中央区備後町3丁目1番8号	293,650	-	293,650	2.93
計	-	293,650	-	293,650	2.93

2 【株価の推移】

非上場及び非登録につき、該当事項はありません。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第5【経理の状況】

1．中間連結財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

(1) 当社の中間連結財務諸表は、「中間連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成11年大蔵省令第24号）に基づいて作成しています。

(2) 当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）に基づいて作成しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（平成26年3月1日から平成26年8月31日まで）の中間連結財務諸表及び中間会計期間（平成26年3月1日から平成26年8月31日まで）の中間財務諸表について、ひびき監査法人により中間監査を受けています。

なお、大阪監査法人は平成26年7月1日付をもって、新橋監査法人及びペガサス監査法人と合併し、名称をひびき監査法人に変更しています。

1【中間連結財務諸表等】

(1)【中間連結財務諸表】

【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当中間連結会計期間 (平成26年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,101	5 4,275
受取手形及び売掛金	6,498	7,972
たな卸資産	1 3,616	1 4,521
繰延税金資産	363	359
その他	675	927
貸倒引当金	19	19
流動資産合計	14,236	18,036
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2 989	2 1,319
機械装置及び運搬具(純額)	6	7
土地	4,229	4,376
リース資産(純額)	1	0
その他(純額)	344	441
有形固定資産合計	3 5,570	3 6,145
無形固定資産	215	284
投資その他の資産		
投資有価証券	4 1,068	4, 5 1,297
長期貸付金	89	57
敷金及び保証金	273	939
繰延税金資産	424	279
その他	169	5 183
貸倒引当金	169	152
投資その他の資産合計	1,856	2,606
固定資産合計	7,642	9,036
資産合計	21,878	27,072
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,659	3,705
短期借入金	480	1,711
1年内償還予定の社債	40	70
未払法人税等	265	412
返品調整引当金	138	123
賞与引当金	32	69
役員賞与引当金	5	4
繰延税金負債	5	3
その他	939	1,333
流動負債合計	5,566	7,433

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当中間連結会計期間 (平成26年8月31日)
固定負債		
社債	60	135
長期借入金	620	1,939
退職給付引当金	558	695
役員退職慰労引当金	387	425
関係会社事業損失引当金	21	21
繰延税金負債	38	55
その他	6	94
固定負債合計	1,691	3,366
負債合計	7,258	10,799
純資産の部		
株主資本		
資本金	500	500
資本剰余金	225	225
利益剰余金	13,683	15,332
自己株式	5	22
株主資本合計	14,402	16,035
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	196	233
繰延ヘッジ損益	21	4
その他の包括利益累計額合計	218	237
純資産合計	14,620	16,272
負債純資産合計	21,878	27,072

【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
売上高	23,876	26,753
売上原価	1 15,043	1 16,758
売上総利益	8,832	9,995
販売費及び一般管理費	2 7,219	2 9,151
営業利益	1,612	843
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	48	144
仕入割引	105	103
不動産賃貸料	19	18
貸倒引当金戻入額	0	4
負ののれん償却額	18	-
雑収入	23	48
その他	1	11
営業外収益合計	217	332
営業外費用		
支払利息	16	27
売上割引	20	12
雑損失	2	3
不動産賃貸費用	7	7
その他	-	5
営業外費用合計	46	56
経常利益	1,784	1,119
特別利益		
投資有価証券売却益	27	0
固定資産売却益	-	3 420
負ののれん発生益	-	4 789
その他	-	7
特別利益合計	27	1,217
特別損失		
固定資産除売却損	5 41	5 79
投資有価証券売却損	5	-
厚生年金基金脱退損失引当金繰入額	60	-
その他	1	1
特別損失合計	107	80
税金等調整前中間純利益	1,703	2,256
法人税、住民税及び事業税	661	434
法人税等調整額	13	135
法人税等合計	648	570
少数株主損益調整前中間純利益	1,055	1,685
中間純利益	1,055	1,685

【中間連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
少数株主損益調整前中間純利益	1,055	1,685
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	41	37
繰延ヘッジ損益	102	17
その他の包括利益合計	61	19
中間包括利益	994	1,704
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	994	1,704
少数株主に係る中間包括利益	-	-

【中間連結株主資本等変動計算書】

前中間連結会計期間（自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	500	225	11,538	1	12,261
当中間期変動額					
剰余金の配当			59		59
中間純利益			1,055		1,055
自己株式の取得				3	3
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）					
当中間期変動額合計	-	-	995	3	991
当中間期末残高	500	225	12,533	5	13,253

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	161	149	310	12,572
当中間期変動額				
剰余金の配当				59
中間純利益				1,055
自己株式の取得				3
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	41	102	61	61
当中間期変動額合計	41	102	61	930
当中間期末残高	203	46	249	13,503

当中間連結会計期間（自 平成26年 3月 1日 至 平成26年 8月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	500	225	13,683	5	14,402
当中間期変動額					
剰余金の配当			59		59
中間純利益			1,685		1,685
自己株式の取得				16	16
新規連結に伴う利益剰余金増加額			23		23
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）					-
当中間期変動額合計	-	-	1,649	16	1,632
当中間期末残高	500	255	15,332	22	16,035

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	196	21	218	14,620
当中間期変動額				
剰余金の配当				59
中間純利益				1,685
自己株式の取得				16
新規連結に伴う利益剰余金増加額				23
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	37	17	19	19
当中間期変動額合計	37	17	19	1,652
当中間期末残高	233	4	237	16,272

【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,703	2,256
減価償却費	112	143
負ののれん償却額	18	-
負ののれん発生益	-	789
のれん償却額	-	6
有形固定資産除売却損益（は益）	41	340
有価証券売却損益（は益）	21	0
返品調整引当金の増減額（は減少）	26	14
貸倒引当金の増減額（は減少）	14	22
退職給付引当金の増減額（は減少）	11	0
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	-	7
受取利息及び受取配当金	48	145
支払利息	14	25
賞与引当金の増減額（は減少）	0	3
役員賞与引当金の増減額（は減少）	3	1
売上債権の増減額（は増加）	190	898
たな卸資産の増減額（は増加）	344	172
仕入債務の増減額（は減少）	52	480
未払消費税等の増減額（は減少）	76	234
その他の資産の増減額（は増加）	34	457
その他の負債の増減額（は減少）	43	47
その他	52	-
厚生年金基金脱退損失引当金の増減額（は減少）	60	-
小計	1,373	551
利息及び配当金の受取額	48	145
利息の支払額	14	25
法人税等の支払額	973	291
営業活動によるキャッシュ・フロー	434	379
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	7	14
投資有価証券の取得による支出	12	16
投資有価証券の売却による収入	113	22
有形固定資産の取得による支出	94	169
有形固定資産の売却による収入	10	56
無形固定資産の取得による支出	0	-
ソフトウェアの取得による支出	1	8
長期前払費用の取得による支出	-	3
短期貸付金の増減額（は増加）	0	11
長期貸付けによる支出	-	0
長期貸付金の回収による収入	18	31
子会社株式の取得による支出	-	240
投資活動によるキャッシュ・フロー	26	352

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	500	173
長期借入れによる収入	800	1,713
長期借入金の返済による支出	350	676
社債の償還による支出	150	45
自己株式の取得による支出	3	16
配当金の支払額	59	59
ファイナンス・リース債務の返済による支出	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	264	1,089
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	196	1,116
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	16
現金及び現金同等物の期首残高	2,156	3,044
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,353	4,177

【注記事項】

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(イ) 連結子会社の数 14社

主要な連結子会社名

小泉アパレル(株)、コイズミクロージング(株)、小泉ライフテックス(株)、京都小泉(株)、(株)オッジ・インターナショナル、(株)コスギ、(株)イフ、(株)モア、ケー・アイ・ティー(株)、(株)宮永本店、(株)ジャックコーポレーション、(株)ジャック富山、(株)ギャルソンヌ、(株)日本きものセンター

(株)ジャックコーポレーション、(株)ジャック富山、(株)ギャルソンヌは、株式の取得により子会社となったため、当中間連結会計年度より連結の範囲に含めております。

(株)日本きものセンターは、重要性が増したため、当中間連結会計年度より連結の範囲に含めております。

(ロ) 非連結子会社の名称等

非連結子会社の名称 湘泉服装公司 他 10社の計11社

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模な製造会社・販売会社であり、合計の総資産、売上高、中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも中間連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(イ) 持分法適用の非連結子会社数 0社

(ロ) 持分法適用の関連会社数

持分法適用の関連会社はありません。

(ハ) 持分法を適用していない非連結子会社(湘泉服装公司他 10社)及び関連会社(株)コイズミ保険センター他 2社)は、中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても中間連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しています。

3. 連結子会社の間接決算日等に関する事項

連結子会社のうち、(株)イフ及び(株)宮永本店は中間決算日が7月末日であります。中間連結財務諸表作成に当たっては、同中間決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、中間連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上、必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(イ) 重要な資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産

...主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

...中間決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定しております)

時価のないもの

...主として移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

(ロ) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

...定率法

ただし平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)は定額法を採用しております。

主な耐用年数

(建物及び構築物) 15~47年

(運搬具・器具備品) 6~15年

無形固定資産(リース資産を除く)

...定額法(なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法)

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(八) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

退職給付引当金

当中間連結会計期間末における退職給付債務額を計上しております。なお、退職給付債務の計算は、簡便法によっております。

役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく中間連結会計期間末要支給額を計上しています。

賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当中間連結会計期間に負担すべき金額を計上しています。

返品調整引当金

商品の返品による損失に備えるため、返品実績率により繰入限度額を計上しています。

役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えて、当中間連結会計期間における支給見込額に基づき計上しています。

(二) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、為替予約取引については振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を、金利スワップについては特殊処理の要件を満たしている場合は、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

当中間連結会計期間にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりです。

ヘッジ手段...為替予約及び金利スワップ取引

ヘッジ対象...製品輸入による外貨建買入債務、外貨建予定取引及び借入金の支払金利

ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規定及び取引限度額等を定めた内部規定に基づき、ヘッジ対象に係る為替相場変動リスク及び金利変動リスクを一定の範囲内でヘッジしています。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計又は相場変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計又は相場変動を半期毎に比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しています。ただし特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(ホ) のれん及び負ののれんの償却に関する事項

原則として5年間の均等償却を行い、少額なときは一括償却しています。

(ヘ) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(ト) その他中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(中間連結貸借対照表関係)

1. たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 平成26年2月28日	当中間連結会計期間 平成26年8月31日
商品	3,607百万円	4,504百万円
仕掛品	9百万円	16百万円

2. 国庫補助金等(補助金収入)により取得した資産につき、取得価額から控除されている圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 平成26年2月28日	当中間連結会計期間 平成26年8月31日
建物及び構築物	29百万円	29百万円
計	29百万円	29百万円

3. 減価償却累計額

	前連結会計年度 平成26年2月28日	当中間連結会計期間 平成26年8月31日
減価償却累計額	3,704百万円	4,589百万円

4. 非連結子会社及び関連会社に対するもの

	前連結会計年度 平成26年2月28日	当中間連結会計期間 平成26年8月31日
投資有価証券	162百万円	159百万円

5. 担保に供している資産

	前連結会計年度 平成26年2月28日	当中間連結会計期間 平成26年8月31日
投資有価証券	- 百万円	1百万円
定期預金	- 百万円	200百万円
保険積立金	- 百万円	6百万円

6. 当座借越契約

	前連結会計年度 平成26年2月28日	当中間連結会計期間 平成26年8月31日
当座借越契約の総額	9,000百万円	10,250百万円
借入実行額	- 百万円	795百万円
差引額	9,000百万円	9,455百万円

(中間連結損益計算書関係)

1. 中間期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損(は戻入額)が売上原価に含まれております。

	前中間連結会計期間 自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日	当中間連結会計期間 自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日
	45百万円	227百万円

2. 販売費及び一般管理費の主要な費目

	前中間連結会計期間 自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日	当中間連結会計期間 自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日
給料	3,634百万円	4,308百万円
貸倒引当金繰入額	6百万円	17百万円
退職給付引当金繰入額	10百万円	41百万円
役員退職慰労引当金繰入額	15百万円	21百万円
賞与引当金繰入額	28百万円	42百万円
物流費	997百万円	1,147百万円
役員賞与引当金繰入額	2百万円	4百万円

3. 固定資産売却益

	前中間連結会計期間 自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日	当中間連結会計期間 自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日
土地	-	420百万円

4. 負ののれん発生益

	前中間連結会計期間 自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日	当中間連結会計期間 自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日
	-	負ののれん発生益は、コイズミクロージング㈱が㈱ジャックコーポレーション及び㈱ジャック富山を買収したことによるものです。

5. 固定資産除売却損の主なもの、以下のとおりであります

	前中間連結会計期間 自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日	当中間連結会計期間 自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日
建物	3百万円	76百万円
器具備品	2百万円	1百万円
構築物	-百万円	1百万円
土地	35百万円	-百万円

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

前中間連結会計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当中間連結会計期間 増加株式数(千株)	当中間連結会計期間 減少株式数(千株)	当中間連結会計期間 末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	10,000	-	-	10,000
合計	10,000	-	-	10,000
自己株式				
普通株式(注)	25	48	-	73
合計	25	48	-	73

(注)自己株式の増加は株式の買取請求によるものです。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払金額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年5月27日 定時株主総会	普通株式	59	6.0	平成25年2月28日	平成25年5月28日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が中間連結会計期間末後となるもの
 該当事項ありません。

当中間連結会計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当中間連結会計期間 増加株式数(千株)	当中間連結会計期間 減少株式数(千株)	当中間連結会計期間 末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	10,000	-	-	10,000
合計	10,000	-	-	10,000
自己株式				
普通株式(注)	73	220	-	293
合計	73	220	-	293

(注)自己株式の増加は株式の買取請求によるものです。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払金額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年5月26日 定時株主総会	普通株式	59	6.0	平成26年2月28日	平成26年5月27日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が中間連結会計期間末後となるもの
 該当事項ありません。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 自 平成25年 3月 1日 至 平成25年 8月31日	当中間連結会計期間 自 平成26年 3月 1日 至 平成26年 8月31日
現金及び預金勘定	2,401百万円	4,275百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	48	98
現金及び現金同等物	2,353	4,177

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

当中間連結会計年度(自 平成26年 3月 1日 至 平成26年 8月31日)

株式の取得により新たに㈱ジャックコーポレーション、㈱ギャルソンヌ、㈱ジャック富山を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の主な内訳、並びにジャックコーポレーション、㈱ギャルソンヌ、㈱ジャック富山の株式取得価額と取得による収入及び支出(純額)との関係は次のとおりであります。

(1)㈱ジャックコーポレーション

流動資産	1,459百万円
固定資産	1,200
流動負債	614
固定負債	378
負ののれん	701
株式の取得価額	965
現金及び現金同等物	399
差引：取得による支出	565

負ののれんの金額は、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(2)㈱ギャルソンヌ

流動資産	1,353百万円
固定資産	502
のれん	68
流動負債	972
固定負債	602
株式の取得価額	350
現金及び現金同等物	600
差引：取得による収入	250

のれんは、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(3)㈱ジャック富山

流動資産	116百万円
固定資産	12
流動負債	0
負ののれん	88
株式の取得価額	35
現金及び現金同等物	109
差引：取得による収入	74

負ののれんは、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(金融商品関係)

前連結会計年度末(平成26年2月28日)

金融商品の時価等に関する事項

平成26年2月28日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	3,101	3,101	-
(2)受取手形及び売掛金	6,498	6,498	-
(3)投資有価証券	622	622	-
(4)長期貸付金	89		
貸倒引当金(*1)	37		
	51	52	1
資産計	10,274	10,274	1
(1)支払手形及び買掛金	3,659	3,659	-
(2)短期借入金	-	-	-
(3)社債(1年内償還予定額を含む)	100	100	0
(4)長期借入金(1年内返済予定額を含む)	1,100	1,097	2
負債合計	4,859	4,856	2
デリバティブ取引(*2)	23	23	-

(*1)長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

当中間連結会計期間末(平成26年8月31日)

金融商品の時価等に関する事項

平成26年8月31日における中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	中間連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	4,275	4,275	-
(2)受取手形及び売掛金	7,972	7,972	-
(3)投資有価証券	819	819	-
(4)長期貸付金	57		
貸倒引当金	37		
	20	20	0
資産計	13,087	13,088	0
(1)支払手形及び買掛金	3,705	3,705	-
(2)短期借入金	795	795	-
(3)社債(1年内償還予定額を含む)	205	205	0
(4)長期借入金(1年内返済予定額を含む)	2,854	2,865	10
負債合計	6,765	6,776	11
デリバティブ取引	19	19	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっています。

(4) 長期貸付金

長期貸付金の時価については、主として将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、貸倒懸念債権については、担保及び保証による回収見込額等により貸倒見積額を算定しているため、中間連結貸借対照表計上額から当該貸倒見積額を控除した金額をもって時価としております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金 並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(3) 社債

社債の時価について、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(4) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっている。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記参照。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当中間連結会計期間 (平成26年8月31日)
非上場株式	446	478

(有価証券関係)

前連結会計年度末(平成26年2月28日現在)

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	500	210	289
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	500	210	289
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	122	135	13
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	122	135	13
合計		622	346	276

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額 446百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表「その他有価証券」には含めておりません。

2. 減損処理を行なった有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について、6百万円の減損処理を実施しております。

当中間連結会計期間末(平成26年8月31日現在)

1. その他有価証券

	種類	中間連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	710	369	341
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	710	369	341
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	108	121	12
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	108	121	12
合計		819	491	328

(注) 非上場株式等(中間連結貸借対照表計上額478百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表「その他有価証券」には含めておりません。

2. 減損処理を行なった有価証券

該当事項ありません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べて50%以上下落した場合は全て減損処理を行い、30%~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を実施しております。

(企業結合等関係)

当中間連結会計期間(自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)

株式取得による企業結合

株式会社ジャックコーポレーションの株式取得(子会社化)について

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社ジャックコーポレーション

事業の内容 繊維製品販売関連事業

(2) 企業結合を行った主な理由

コイズミクロージング株式会社と経営統合することにより、コイズミクロージング株式会社の小売部門への挑戦、SPA型ビジネスの構築を図るうえでシナジー効果が期待でき、最終的に当社グループの企業価値を高められることから、株式を取得しました。

(3) 企業結合日

平成26年3月11日

みなし取得日

平成26年2月20日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません

(6) 取得した議決権比率

100.0%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とする株式取得

2. 中間連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成26年2月21日から平成26年8月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	965百万円
取得原価		965百万円

4. 負ののれん発生益の金額及び発生原因

(1) 負ののれん発生益の金額

701百万円

負ののれん発生益の金額は、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(2) 発生原因

取得原価が企業結合時の時価純資産を下回ったため、その差額を負ののれん発生益として計上しております。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

(1) 資産の額

流動資産	1,459百万円
固定資産	1,200百万円
合計	2,659百万円

(2) 負債の額

流動負債	614百万円
固定負債	378百万円
合計	993百万円

6. 企業結合が当中間連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当中間連結会計年度の中間連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当該企業結合は、当中間連結会計年度の開始の日に完了しているため、影響はありません。

株式会社ジャック富山の株式取得（子会社化）について

1．企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社ジャック富山
 事業の内容 繊維製品販売関連事業

(2) 企業結合を行った主な理由

コイズミクロージング株式会社と経営統合することにより、コイズミクロージング株式会社の小売部門への挑戦、SPA型ビジネスの構築を図るうえでシナジー効果が期待でき、最終的に当社グループの企業価値を高められることから、株式を取得しました。

(3) 企業結合日

平成26年3月11日
 みなし取得日
 平成26年2月20日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません

(6) 取得した議決権比率

100.0%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とする株式取得

2．中間連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成26年2月21日から平成26年8月31日まで

3．被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	35百万円
<hr/>		
取得原価		35百万円

4．負ののれん発生益の金額及び発生原因

(1) 負ののれん発生益の金額

88百万円

負ののれん発生益の金額は、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(2) 発生原因

取得原価が企業結合時の時価純資産を下回ったため、その差額を負ののれん発生益として計上しております。

5．企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

(1) 資産の額

流動資産	116百万円
固定資産	12百万円
合計	128百万円

(2) 負債の額

流動負債	0百万円
合計	0百万円

6．企業結合が当中間連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当中間連結会計年度の中間連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当該企業結合は、当中間連結会計年度の開始の日に完了しているため、影響はありません。

株式会社ギャルソンの株式取得（子会社化）について

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社ギャルソン

事業の内容 繊維製品販売関連事業

(2) 企業結合を行った主な理由

当社グループ各社とのシナジー効果が期待でき、最終的に当社グループの企業価値を高められることから当社が、株式を取得しました。

(3) 企業結合日

平成26年3月12日

みなし取得日

平成26年2月28日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません

(6) 取得した議決権比率

100.0%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とする株式取得

2. 中間連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成26年3月1日から平成26年8月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	350百万円
取得原価		350百万円

4. のれんの金額及び発生原因、償却の方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

68百万円

のれんは、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(2) 発生原因

今後の事業展開に期待される超過収益力

(3) 償却方法及び償却期間

5年の定額法

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

(1) 資産の額

流動資産	1,353百万円
固定資産	502百万円
合計	1,856百万円

(2) 負債の額

流動負債	972百万円
固定負債	602百万円
合計	1,574百万円

6. 企業結合が当中間連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当中間連結会計年度の中間連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当該企業結合は、当中間連結会計年度の開始の日に完了しているため、影響はありません。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度末(平成26年2月28日)

(1) 通貨関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 買建(米ドル)	買掛金	2,562	-	23
合計			2,562	-	23

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当中間連結会計期間末(平成26年8月31日)

(1) 通貨関連

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 買建(米ドル)	買掛金	1,863	-	19
合計			1,863	-	19

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価額に基づき算定しております。

(2) 金利関連

前連結会計年度(平成26年2月28日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	700	360	(注)
合計			700	360	

(注) 時価の算定方法

金利スワップの特例処理によるものはヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当中間連結会計期間(平成26年8月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	700	260	(注)
合計			700	260	

(注) 時価の算定方法

金利スワップの特例処理によるものはヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(資産除去債務関係)

当社グループは、事務所等の不動産賃貸契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しておりますが、当該債務の総額に対する重要性が乏しいため、記載は省略しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の中間連結貸借対照表計上額及び中間連結決算日における時価に、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)及び当中間連結会計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)

報告セグメントは「繊維製品販売関連事業」のみであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前中間連結会計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間連結損益計算書の売上の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客の売上高のうち、中間連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当中間連結会計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間連結損益計算書の売上の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客の売上高のうち、中間連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前中間連結会計期間（自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日）

当社の報告セグメントは「繊維製品販売関連事業」のみであるため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間（自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日）

当社の報告セグメントは「繊維製品販売関連事業」のみであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前中間連結会計期間（自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日）

当社の報告セグメントは「繊維製品販売関連事業」のみであるため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間（自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日）

当社の報告セグメントは「繊維製品販売関連事業」のみであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前中間連結会計期間（自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日）

当社の報告セグメントは「繊維製品販売関連事業」のみであるため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間（自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日）

当社の報告セグメントは「繊維製品販売関連事業」のみであるため、記載を省略しております。

【1株当たり情報】

(1株当たり情報)

	前中間連結会計期間 自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日	当中間連結会計期間 自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日
1株当たり中間純利益金額	106.15円	171.34円
(算定上の基礎)		
中間純利益金額(百万円)	1,055	1,685
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る中間純利益金額(百万円)	1,055	1,685
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,940	9,835

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

	前連結会計年度 平成26年2月28日	当中間連結会計期間 平成26年8月31日
1株当たり純資産額	1,472.86円	1,676.50円
(算定上の基礎)		
純資産の部の合計額(百万円)	14,620	16,272
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	-	-
普通株式に係る中間期末(期末)の純資産額 (百万円)	14,620	16,272
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末 (期末)の普通株式の数(千株)	9,926	9,706

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2)【その他】

該当事項はありません。

2【中間財務諸表等】

(1)【中間財務諸表】

【中間貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年2月28日)	当中間会計期間 (平成26年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	628	334
営業外受取手形	103	124
前払費用	1	25
繰延税金資産	-	8
関係会社短期貸付金	310	1,220
未収入金	102	509
流動資産合計	1,145	2,222
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,869	1,777
構築物（純額）	1	1
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品（純額）	2	1
土地	3,395	3,090
有形固定資産合計	4,268	3,871
無形固定資産		
	2	2
投資その他の資産		
投資有価証券	147	157
関係会社株式	1,439	1,789
関係会社長期貸付金	775	930
その他	83	83
貸倒引当金	16	16
投資損失引当金	-	63
投資その他の資産合計	2,429	2,880
固定資産合計	6,700	6,755
資産合計	7,845	8,978
負債の部		
流動負債		
関係会社短期借入金	2,000	1,700
1年内返済予定の長期借入金	-	337
未払金	28	12
未払費用	1	1
未払法人税等	0	99
未払消費税等	5	10
預り金	16	14
繰延税金負債	2	-
流動負債合計	2,052	2,175
固定負債		
繰延税金負債	38	43
長期借入金	-	843
退職給付引当金	25	26

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年2月28日)	当中間会計期間 (平成26年8月31日)
役員退職慰労引当金	75	79
固定負債合計	139	993
負債合計	2,191	3,168
純資産の部		
株主資本		
資本金	500	500
資本剰余金		
資本準備金	0	0
その他資本剰余金	224	224
資本剰余金合計	225	225
利益剰余金		
利益準備金	125	125
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	31	30
別途積立金	3,200	4,300
繰越利益剰余金	1,521	588
利益剰余金合計	4,878	5,044
自己株式	5	22
株主資本合計	5,598	5,747
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	55	61
評価・換算差額等合計	55	61
純資産合計	5,654	5,809
負債純資産合計	7,845	8,978

【中間損益計算書】

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当中間会計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
営業収益	366	368
営業費用	136	145
営業利益	229	222
営業外収益	1 51	1 32
営業外費用	2 17	2 14
経常利益	262	240
特別利益	-	3 235
特別損失	4 258	4 136
税引前中間純利益	4	338
法人税、住民税及び事業税	0	122
法人税等調整額	36	9
法人税等合計	36	112
中間純利益	40	225

【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間（自 平成25年 3月 1日 至 平成25年 8月31日）

（単位：百万円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
						固定資産圧 縮積立金	別途積立金	繰越利益剰 余金	
当期首残高	500	0	224	225	125	34	3,200	196	3,556
当中間期変動額									
剰余金の配当								59	59
固定資産圧縮積立金の 取崩						1		1	-
中間純利益								40	40
自己株式の取得									
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純 額）									
当中間期変動額合計	-	-	-	-	-	1	-	17	19
当中間期末残高	500	0	224	225	125	33	3,200	179	3,537

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価 差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1	4,280	45	45	4,326
当中間期変動額					
剰余金の配当		59			59
固定資産圧縮積立金の 取崩					
中間純利益		40			40
自己株式の取得	3	3			3
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純 額）			8	8	8
当中間期変動額合計	3	22	8	8	14
当中間期末残高	5	4,257	53	53	4,311

当中間会計期間（自 平成26年 3月 1日 至 平成26年 8月31日）

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
						固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	500	0	224	225	125	31	3,200	1,521	4,878
当中間期変動額									
別途積立金の積立							1,100	1,100	-
剰余金の配当								59	59
固定資産圧縮積立金の取崩						1		1	-
中間純利益								225	225
自己株式の取得									
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）									
当中間期変動額合計	-	-	-	-	-	1	1,100	932	165
当中間期末残高	500	0	224	225	125	30	4,300	588	5,044

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	5	5,598	55	55	5,654
当中間期変動額					
別途積立金の積立					
剰余金の配当		59			59
固定資産圧縮積立金の取崩					
中間純利益		225			225
自己株式の取得	16	16			16
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）			6	6	6
当中間期変動額合計	16	149	6	6	155
当中間期末残高	22	5,747	61	61	5,809

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 子会社及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)は定額法)を採用しています。

主な耐用年数

(建物及び構築物) 15~47年

(運搬具・器具備品) 6~15年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

(2) 退職給付引当金

当中間会計期間末における退職給付債務額を計上しております。なお、退職給付債務の計算は、簡便法によっております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく中間会計期間末要支給額を計上しています。

(4) 投資損失引当金

関係会社への投資に対する損失に備えるため、当該会社の財政状態及び回復可能性等を勘案し、必要と認められる額を計上しております。

4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(中間貸借対照表関係)

1. 圧縮記帳額

取得価額から控除されている圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前事業年度 平成26年 2月28日	当中間会計期間 平成26年 8月31日
建物	29百万円	29百万円

2. 当座借越契約

	前事業年度 平成26年 2月28日	当中間会計期間 平成26年 8月31日
当座借越契約の総額	3,000百万円	3,000百万円
借入実行額	- 百万円	- 百万円
差引額	3,000百万円	3,000百万円

(中間損益計算書関係)

1. 営業外収益のうち主要なもの

	前中間会計期間 自 平成25年 3月 1日 至 平成25年 8月31日	当中間会計期間 自 平成26年 3月 1日 至 平成26年 8月31日
受取利息	8百万円	6百万円
受取配当金	2百万円	3百万円
不動産賃貸料	18百万円	18百万円
貸倒引当金戻入額	20百万円	- 百万円

2. 営業外費用のうち主要なもの

	前中間会計期間 自 平成25年 3月 1日 至 平成25年 8月31日	当中間会計期間 自 平成26年 3月 1日 至 平成26年 8月31日
支払利息	10百万円	7百万円
不動産賃貸費用	7百万円	7百万円

3. 特別利益のうち主要なもの

	前中間会計期間 自 平成25年 3月 1日 至 平成25年 8月31日	当中間会計期間 自 平成26年 3月 1日 至 平成26年 8月31日
固定資産売却益	-	235百万円

4. 特別損失のうち主要なもの

	前中間会計期間 自 平成25年 3月 1日 至 平成25年 8月31日	当中間会計期間 自 平成26年 3月 1日 至 平成26年 8月31日
関係会社事業損失引当金繰入額	219百万円	- 百万円
固定資産除売却損	38百万円	73百万円
投資損失引当金繰入額	- 百万円	63百万円

5. 減価償却実施額

	前中間会計期間 自 平成25年 3月 1日 至 平成25年 8月31日	当中間会計期間 自 平成26年 3月 1日 至 平成26年 8月31日
有形固定資産	30百万円	27百万円

(表示方法の変更)

(単体開示の簡素化に伴い、注記要件が変更されたものに係る表示方法の変更)

以下の事項について、記載を省略している。

- ・財務諸表等規則第25条及び第26条を準用する中間財務諸表等規則第17条に定める減価償却累計額の注記については、財務諸表等規則第26条第2項により、記載を省略しております。
- ・中間財務諸表等規則第52条の2に定める1株当たり中間純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・中間財務諸表等規則第53条に定める潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条を準用する中間財務諸表等規則第66条に定める自己株式に関する注記については、財務諸表等規則第107条第2項により、記載を省略しております。

(有価証券関係)

前事業年度末(平成26年2月28日)

関係会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額 1,438百万円、関連会社株式 0百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当中間会計期間末(平成26年8月31日)

関係会社株式(中間貸借対照表計上額 1,788百万円、関連会社株式 0百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(企業結合等関係)

中間連結財務諸表(企業結合等関係)に記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第74期）（自 平成25年3月1日 至 平成26年2月28日）平成26年5月28日近畿財務局長に提出

(2) 臨時報告書

平成26年7月22日近畿財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

平成26年11月28日

小泉株式会社

取締役会 御中

ひびき監査法人

代表社員 公認会計士 池尻 省三 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 田中 郁生 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている小泉株式会社の平成26年3月1日から平成27年2月28日までの連結会計年度の中間連結会計期間（平成26年3月1日から平成26年8月31日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書、中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について中間監査を行った。

中間連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間連結財務諸表には全体として中間連結財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的な手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間連結財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して、小泉株式会社及び連結子会社の平成26年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間（平成26年3月1日から平成26年8月31日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が中間連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBR Lデータは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

平成26年11月28日

小泉株式会社

取締役会 御中

ひびき監査法人

代表社員 公認会計士 池尻 省三 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 田中 郁生 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている小泉株式会社の平成26年3月1日から平成27年2月28日までの第75期事業年度の中間会計期間（平成26年3月1日から平成26年8月31日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、小泉株式会社の平成26年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成26年3月1日から平成26年8月31日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が中間財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBR Lデータは中間監査の対象には含まれていません。